

日時 平成 30 年 8 月 2 日 (木) 15:00~17:00

場所 鹿児島市立図書館 AVホール

出席者 会長・委員計 10 人

事務局 新名主館長、柿元副館長、阿部市街地まちづくり推進課課長、その他関係職員

〈会次第〉

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 図書館長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 平成 29 年度事業報告及び決算
 - (2) 平成 30 年度事業計画及び予算
 - (3) 図書館事業計画について
 - (4) 基本的運営方針の指標の進捗状況について
 - (5) 前回の図書館協議会の主なご意見について
 - (6) 千日町 1・4 番街区再開発ビルにおける子供の遊び場や図書館機能等を併せた公共空間創出について
- 5 閉会

〈議事概要〉

(1)

会長

図書館の利用状況について、イベントにより入館者増であるが、この利用者をどう本の貸出につなげるかという課題がある。このような来館者への図書案内の工夫はどうしているか。

事務局

イベント等の会場のなかに、関連本をセットして図書を借りられるようにしている。

会長

企画展示などの催しにおいて、人数をカウントするような計数機のようなものはないのか。

事務局

企画展示において、人数を把握するようなものは設置していない。

委員

雑誌スポンサーについて、企業側にあまり認知されていないと思うので、今どれくらい集まっているか、どういう PR をしているか教えてほしい。

事務局

本年7月現在では、11社21誌のスポンサーを得ている。広報については、ホームページや市民のひろばに掲載するとともに、鴨池周辺の企業や他で広告掲載しているような企業等に対して電話や訪問などにより案内しているところである。

委員

商工会議所でもチラシとかあれば、案内するので、少しでも宣伝効果があるようなら協力していきたい。

委員

ブックスタートについてどのような絵本が何タイトルあるか、年度ごとに変えているのか。

事務局

ブックスタートについては、出生届けを出した方に配布しており、本は7冊の中から選べるようになっている。ここ数年は図書のタイトルは同じであり、二人子どもがいる場合など、第1子と2子が同じ本にならないように本は選択できるようになっている。

委員

鹿児島市のお話グループがたくさんあるが、これらとの連携はどうしているのか。司書教諭との連携についてはどうか。

事務局

土曜日のキッズタイム等で、お話グループに“場の提供”を行うとともに、司書教諭に対しては、研修会を行うなど連携を進めている。

(2)

特になし

(3)

会長

書架に余裕をもたせた配架の推進、事業計画の引抜きについて 本はぎっしりつまっていると取り出しにくい、余裕がありすぎてもつまりすぎてもよくないが、その辺りについて指針があるか。

事務局

7割配架ということで、倒れて見苦しくないようにバランスを取るという配架の目標があり、あふれた図書は、閉架書庫の配置に変更する。

委員

他都市の児童コーナーにおいて、いい本を子どもたちに取らせる工夫をしていて、例えば、本を大小平積みする等、レイアウトにバリエーションをつけている。市立図書館もそのような工夫があってもいい。

事務局

児童書においても「おすすめの本のコーナー」を作っているが、ご指摘にあったように、さらに工夫した書架づくりに努めたい。

委員

他都市の例として、武雄市立図書館が年間100万人利用があると話題になっていたので見学した。参考にしてほしい。

(4)

会長

基本的運営方針中の「市民と協働し学びを支える図書館」の目標が一番厳しいようだが、イベント等で近づけると考えているのか。

事務局

イベント等の広報に努め、参加者数を増やしていければと思っている。

(5)

特になし

(6)

委員

この施設は、何階のどの部分に設置されるのか。また広さはどれぐらいなのか。

事務局

決定ではないが、4階から5階部分を想定している。大きさも1000㎡から2000㎡の規模を考えている。

委員

このような便利なところに、図書館が欲しいと願ってきていた。説明にもあったように、各地にこれまでの図書館と違った、図書館機能を含んだ複合施設が街づくりの一助となっている。成功している事例は、皆計画段階から有能なプランナーがかかわっている。再開発ビル成功のためにも、ぜひそのような方の意見や、天文館で読書活動をしている人など、幅広い意見を聞いてほしい。

会長

天文館が寂れていっているのは確かである。この新しいビルによって、どのようにしたら人が集まってくるのか、いろいろな情報を集めて様々な人の意見を吸い上げていって欲しい。

委員

今は、テーマパークを作らなくても、良い図書館をつくれれば人が集まることがわかってきている。図書館だけでなく、地の利を利用して、総合力で考えて俯瞰して、どのような対応を行っていくのか。しっかり考えていく必要がある。

事務局

今回の公共空間の検討で、図書館と決まれば、どのような図書館とするのか基本構想をプロポーザルという形で、いい意見を競わせる形の中で決めていくことになると思うので、その中で検討していく。

会長

近くに近代文学館・メルヘン館もある。人を天文館に呼び戻すために、ターゲットをどうするのか。こどもの数をデータの的にそろえて分析する必要があるのではないか。概ねこのような施設ができることに反対はないと思う。

事務局

詳細については、今後検討していくことになる。